

Osada, H., Coelho de Amorim, A., Velosa, A., Wan, W. P., Lotrakul, P., & Hara, H. (2013). Depression risks in mothers of children with developmental disabilities: a cross-cultural comparison of Brazil, Colombia, Malaysia and Thailand. *International Journal of Social Psychiatry*, **59**, 398-400.

長田 洋和

要約：南米およびアジアの新興国（ブラジル、コロンビア、マレーシア、およびタイ）における発達障害児を持つ母親のメンタルヘルスの問題を、疫学的手法を用いて比較検討した。いずれの国においても、CES-Dにおいてうつ症のスクリーニングのカットオフを越えており、発達障害児を持つ母親はうつ症に罹患している可能性が高いことが示唆された。中でも、コロンビアおよびタイにおいてCES-D得点が高かったことから、新興国の中でも経済的發展が著しいブラジルおよびマレーシアの方が、コロンビアあるいはタイに比して、発達障害児を有する母親へのサポート体制が比較的整いつつあることが示唆された。

背景：発達障害を有する児の子育ては、親に大きな負担となる。定型発達児の母親と発達障害児の母親を比較すると後者の方がメンタルヘルス、および母親としてのウェルビーイングに問題を抱えやすく、特に発達障害を有する子どもの母親は、うつ症に対して脆弱であるという報告がある。これらの研究報告はすべて欧米諸国、あるいはアジアの一部の地域によるもので、殊、ラテンアメリカおよび東南アジア諸国では、発達障害児を有する児の母親の抱える問題についての研究はほとんどなされていない。これらの国々で、発達障害を有する児の母親のうち、うつ症に罹患しているものを鑑別して行く事は、よりよいサービスの提供には欠かせないと思われるが、ラテンアメリカおよび東南アジア諸国の多くでは、これらのサービス体制が確立されていないのが現状である。

本研究は、発達障害児を持つ母親の実際のうつ症の罹患状態を吟味した、初の多文化間比較研究である。

Table 1. Comparison of participants' demographic data and CES-D from four countries^a.

| | Countries | | | | F(d.f.=3, 157) | p | η^2 |
|-------------------------------------|----------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|------|----------|
| | Brazil n=29 | Colombia n=83 | Malaysia n=30 | Thailand n=19 | | | |
| Age (years) | 41.0 | 44.4 | 42.6 | 39.9 | .535 | .662 | .054 |
| Years of education ^a | 9.67 | 11.8 | 12.3 | 11.3 | .396 | .757 | .041 |
| Household size | 5.17 | 4.60 | 4.38 | 6.25 | 1.78 | .174 | .160 |
| Child's age | 9.67 | 13.6 | 9.88 | 5.50 | 2.67 | .067 | .222 |
| Child's gender (%) ^b | 83.3 | 90.0 | 100 | 75.0 | 2.44 ^c | .568 | — |
| Child's diagnosis of disability (%) | | | | | .175 ^c | .790 | — |
| ASD | 41.3 | 46.1 | 37.5 | 47.4 | | | |
| AD/HD | 14.0 | 21.3 | 12.5 | 21.1 | | | |
| ID | 44.7 | 32.6 | 50.0 | 31.5 | | | |
| CES-D | | | | | | | |
| Total score | 23.6* | 19.2 | 14.4** | 16.6 | 4.36 | .006 | .081 |
| Positive ratio (%) ^d | 58.6* | 53.0* | 23.3** | 36.8*** | 10.3 ^c | .015 | — |

N = 161.

CES-D: Center for Epidemiologic Studies Depression Scale.

ASD: autism spectrum disorder, ADHD: attention deficit / hyperactivity disorder, ID: intellectual disability.

^a: cumulative years of education starting with primary school.^b: percentage of boys.^c: Pearson's χ^2 test.^d: cut-off was set at 16.

*, **, different number of asterisks indicate significant differences.

結果および考察：4カ国（ブラジル、コロンビア、マレーシア、タイ）間の人口統計学的データに差異は無かった。この事により、他の変数を各国間で比較する妥当性が確保された。CES-Dの得点から、各国でのうつ症罹患のリスクには差異があったことから、ラテンアメリカの母親の方が、東南アジアの母親よりもうつ症のリスクが高いことが示唆された。東南アジアでは、タイの方がマレーシアよりもうつ症のリスクが高かったが、これは、先行研究で、アジアではタイ以外は欧米よりもうつ症の罹患率が低いという報告と一致するものであった。今後は文化モデルを吟味する事で、各国の文化的背景を鑑みて、文化に応じたサービス提供の必要性を示唆できたことで、本研究には一定の価値があると思われる。